

巻頭言

『クリオ』バックナンバー電子化にあたって

電子化特集

小風尚樹 歴史研究者のためのデジタル道具箱

座談会記録

歴史研究者と対象社会——近現代フランスを中心に——

論文

沼大地

10世紀ビザンツ史料におけるブルガリア王シメオン1世の位置づけ
——対ブルガリア和平記念演説とロマノス1世のプロパガンダ——

特別寄稿

リエット・ヴァン・ブレーメン（師尾晶子訳）

ヘレニズム期キャリアにおける *eis ta patrika*

——概念、手続きそれとも慣習？——

アレクサンダー・ヘルダ（佐藤昇訳）

ミレトスのタレスとギリシア都市構想（アーバニズム）の誕生

——賢人は如何にして都市を創建したのだろうか——

ピエール＝イヴ・ボルペール（田瀬望監訳／楠田悠貴・山王綾乃訳）

啓蒙の世紀のフリーメイソン会所におけるムスリムの認識と受容

史料解題・翻訳

藤崎衛監修 第二リヨン公会議（1274年）決議文翻訳

書評

長野壮一 長谷川貴彦『現代歴史学への展望——言語論的転回を超えて』

クリオ vol. 31 (2017)

東京大学西洋史学研究室発行 定価 1,000円